



清新・高潔・温情のひと 堂野達也先生

弁護士 中央大学学員会顧問 中央大学名誉評議員 市橋千鶴子

そろそろ女性副会長の出番では……との、ときの学員会会長 堂野達也先生の鶴の一声で、女性初の副会長に私が選出されたのは、ちょうど20年前のことであった。同じ東京弁護士会ながら、日本弁護士連合会会長や母校中央大学理事長などと、遠く仰いでいた雲の上の大先達の堂野先生であった。やがて、その大先生と膝をつき合わせて、学員会の運営につき、真剣な討議を重ねる月1回の正副会長会議が、私には待たれてならないものとなった。堂野先生は、常々、学員会は大学と車の両輪として、大学の発展に尽くすべきものとの理念のもと、炎の如き愛校心から、ときには厳しく、ときには暖かく情義を尽くして結論を導かれ

る、長としてのその統率振りは、見惚れるほど見事なものであった。

一方、堂野先生の、学員の親睦のために文化的なものをとのご要請により『学員時報』に設けられた「中央俳壇」も、その投句者による「中央俳句会」も、17年を経過した今日ますます隆盛で、先生の夢は十二分に達成されたものといえよう。『中央俳壇合同句集』（監修：石原八束先生）に、堂野先生も20句出詠され、その素朴かつ清新なお作風や含羞のエッセーは、先生のお人柄そのものであり、お懐かしさこの上ない。

昨年12月13日、105歳の天寿を全うされた堂野先生のご冥福を、心から謹んでお祈り申し上げる次第である。

かぎ 鐘の音の読経に和すや暮の春 達也

市橋 千鶴子(俳号・千翔)

大正9年生まれ。姫路市出身。昭和29年中央大学法学部卒。弁護士(東京弁護士会)。昭和51年日本弁護士連合会常務理事。平成2年春勲四等瑞宝章受章。昭和62年俳誌「河」入会。平成4年同人・現銀河集同人。同年俳人協会会員。平成2年中央大学学員会副会長。平成6年「中央俳句会」会長・現名誉会長。平成10年『学員時報』「中央俳壇」および「中央俳句会」選者。平成15年中央大学名誉評議員。平成16年中央大学学員会顧問。句集『羽衣』、『花筐』、『砧』刊。『中央俳壇年刊合同句集・薫風』共著。



井上達雄先生

明治40年大分県生まれ。中央大商学部卒業。昭和19年商学部教授。22年同志とともに中央大学経理研究所を設立。24年第1回公認会計士試験合格。公認会計士第2次試験、日本商工会議所簿記検定の委員として日本の会計学の発展に貢献した。大学では商学部長、研究科委員長、経理研究所長を歴任、42年には学長、翌年総長職務代行に就任した。平成7年87歳で逝去。趣味は囲碁とゴルフ。囲碁は堂野達也先生の好敵手であった。



花井忠先生

明治27年茨城県生まれ。東京帝大法学部卒業、大正11年弁護士登録。14年に花井卓蔵先生の養子となる。翌年本学法学部教授に就任する一方で刑事弁護の権威として活躍、昭和11年に第一東京弁護士会副会長就任。戦後の東京裁判では広田弘毅の弁護人となる。国家公安委員、東京高検検事長、検事総長を歴任。昭和48年78歳で逝去。



大場俊助先生

明治39年静岡県生まれ。東京文理大卒業後、中央大予科講師、同教授に就任して国語を担当した。昭和24年には新制大学教授となり日本文学を教えた。文芸学の視点から「一茶のウィタ・セクスアリス」「日本文学の系統」「日本文芸の世界」など多くの著作を発表。昭和45年文学部教授在任中に64歳で逝去。